

## 今週の為替相場見通し(2018年12月10日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ	
		注	レンジ	終値		
米ドル	(円)		112.23 ~ 113.87	112.74	111.00 ~ 113.80	
ユーロ	(ドル)		1.1312 ~ 1.1424	1.1380	1.1250 ~ 1.1500	
(1ユーロ=)	(円)		127.64 ~ 129.38	128.53	127.00 ~ 130.00	
英ポンド	(ドル)		1.2659 ~ 1.2840	1.2725	1.2600 ~ 1.2900	
(1英ポンド=)	(円)	*	144.52 ~ 145.84	144.79	142.50 ~ 144.50	
豪ドル	(ドル)		0.7192 ~ 0.7394	0.7197	0.7050 ~ 0.7325	
(1豪ドル=)	(円)	*	81.59 ~ 83.22	82.98	79.00 ~ 82.50	

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

### 1. 米ドル

為替市場第一チーム 森田 大貴

(1)今週の予想レンジ: 111.00 ~ 113.80 円

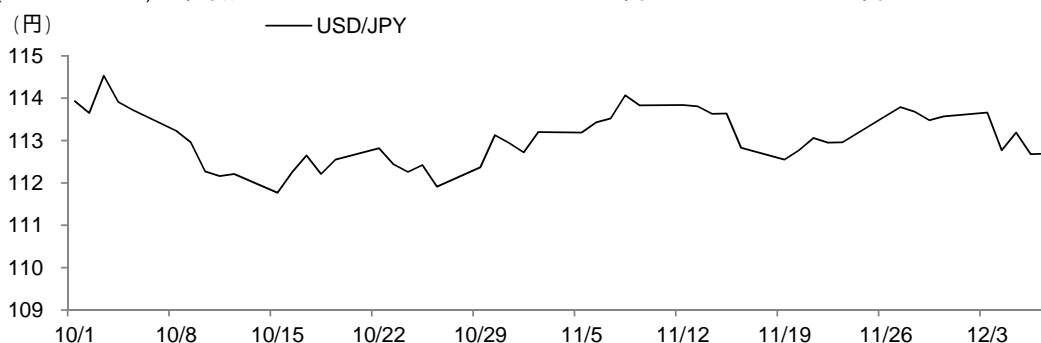
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、軟調推移。週末の米中首脳会談で両国の追加関税が当面見送られることになったことを受けて、米中貿易摩擦激化の懸念後退から週明け3日のドル/円はギャップアップして113円台後半でオープン。一時週高値となる113.87円をつけたが、合意内容は対中追加関税の発動が90日延期されるなど根本的な解決にはなっていないことが嫌気され113円台前半まで反落。4日はFRBの利上げペース減速が再度意識され米10年債利回りが9月中旬以来の水準まで低下する中で112円台後半まで急落。その後113円近辺まで上昇する場面も見られたが、米株安債券高が進行し112円台半ばまで下落した。5日は、五・十日のドル買い需要や日経平均株価の下げ渋りが意識され113円台を回復したが、6日は中国通信機器大手の幹部がカナダで逮捕され米国が引渡しを要求していることが伝わり、米中関係の悪化懸念から112円台半ばまで反落。その後、中国商務省の「90日以内に米国と貿易合意に達する自信がある」との声明に113円台前半まで買い戻されたが、米11月ADP雇用統計などの米経済指標が予想よりも弱い内容だったことから一時週安値となる112.23円をつけた。しかしその後は、FRBのハト派シフトを示唆するWSJ報道が好感されたこともあり、米株が反発する動きにドル/円も112円台後半まで反発。翌7日、米11月雇用統計では、非農業部門雇用者数、平均時給がともに予想を下回り、ドル売りの反応。一方、石油輸出国機構(OPEC)加盟国、非加盟国は全体で日量120万バレルの原産を合意し、原油価格は一時5%超反発。ドル/円も株価の反発につられて一時112.90円超えまで反発する場面も見られたが米株安、金利低下が続く中で上値は重く、112.74円で越週した。

今週のドル/円相場は上値の重い展開を予想。先週は、G20後のリスクオン環境下でも、114円付近での上値の重さを確認。米金利の低下が続く中、中国通信機器大手の高官逮捕や米中関係悪化懸念を受けた米株の調整も相まって、一時112円台前半まで安値を更新する展開となった。足元、米国債の上昇基調が注目されるが、FRBがブラックアウト期間に入中、週末発表された雇用統計も足元のセンチメントを変えるには至らず。また、米株は週末も大幅続落となったが、来週は11日にイタリア政府による修正予算案提出や、英国政府がEUと合意した離脱協定案に関する議会承認手続きといったイベントを控え、欧州でも不透明感が引き続き払拭されない状況。ドル/円はマーケットのポジションもまだロングに傾いており、引き続き上値の重い展開が続こう。

(3)先週までの相場の推移

先週(12/3~12/7)の値動き: 安値 112.23 円 高値 113.87 円 終値 112.74 円



(資料)ブルームバーグ

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。  
しています。

レポート全ページをご希望の方は、  
お取引いただいているみずほ銀行の  
お取扱店、またはお取引担当部まで  
お問い合わせください。

以上